

石見銀山



ユネスコ世界遺産とは

世界の約190カ国が締結する「世界遺産条約」に基づいて、人類全体のために保全・保護すべきものとして「世界遺産リスト」に記載された文化遺産・自然遺産を「世界遺産」と呼びます。ユネスコは、破壊の脅威にさらされている遺産を保護するとともに、人類が世界中で築き上げた多様な文化や歴史、あるいは自然に形成された生命や美に対する人類相互の理解を深めるために世界遺産の登録を進めています。

石見銀山遺跡は「石見銀山遺跡とその文化的景観」として、2007年7月、国内14件目、鉱山遺跡としてはアジアで初めて世界遺産に登録されました。

世界遺産に登録された石見銀山遺跡の価値

石見銀山の銀が世界的に重要な経済・文化交流を生み出したこと

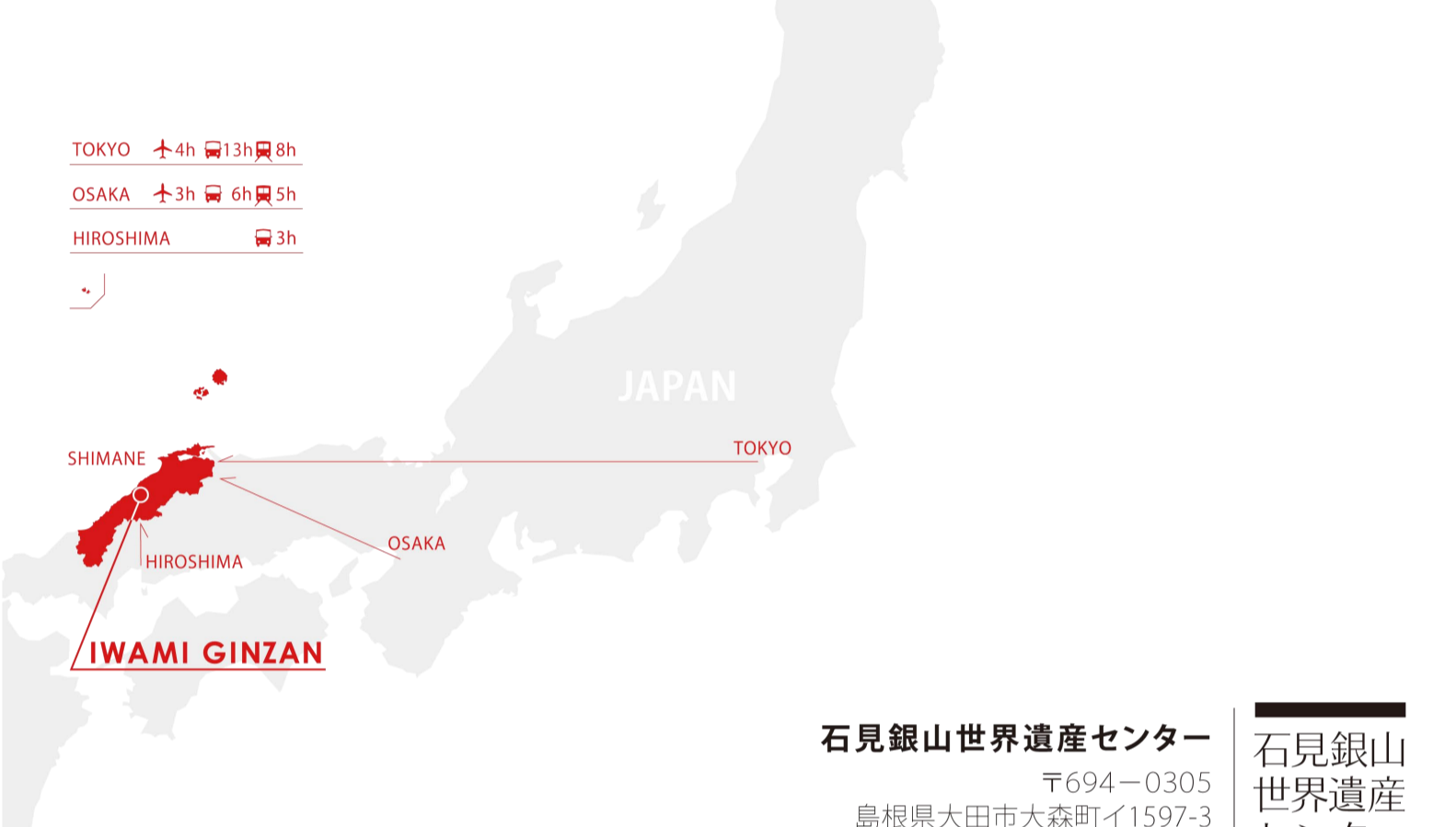
金銀や香辛料を求めて世界に活動範囲を広げつづいたヨーロッパ人が、アジアの貿易に参入する大きな契機となったのが、大量に産出し高品位だったといわれる石見銀山の銀でした。また、石見銀山で用いられた銀生産技術は国内の多くの鉱山に伝えられ、銀生産の興隆をもたらしました。

中・近世の銀生産方式を示す考古学的遺構が豊富で良好に残されていること

石見銀山では、採掘から精錬までの作業がすべて手作業で行われていました。このことを証明する900か所以上の露頭掘り跡や坑道跡、あるいは、これらに隣接して、製錬工房と生活の場であった平坦地も約1000か所以上が残されています。

銀の生産から搬出に至る鉱山活動の全体像が集落や文化的景観として良好に残されていること

石見銀山には、銀を生産した鉱山跡だけでなく、城跡や代官所などの支配関連の施設跡、商人や武士や坑夫が暮らした鉱山町の歴史的な町並み、あるいは銀の流通路であった街道、銀を積み出した港湾や港町など、鉱山活動の全体像を示す遺構や町並みなどが良好に残され、それは現在でも地域住民の生活の場となっています。



石見銀山世界遺産センター

〒694-0305
島根県大田市大森町イ1597-3
Tel 0854-89-0183
Fax 0854-89-0089
http://ginzan.city.ohda.lg.jp

石見銀山世界遺産センター

IWAMI GINZAN
WORLD HERITAGE
CENTER



銀鉱山跡と鉱山町

-1 銀山柵内

-ざんざんさくのうち-

石見銀山は16世紀前半に本格の開採が始まり、20世紀まで操業された鉱山です。17世紀はじめ（江戸時代の初め）は木の柵で厳重に囲まれていたことからこの名があります。鉱山開発をはじめとして、人々の生活、流通、信仰に関わる建築や遺構などが数多く残されています。

街道

<石見銀山街道>

-11 温泉津・沖泊道

-ゆのつ・おきどまりどう-

石見銀山街道のひとつで、温泉津港・沖泊道と石見銀山柵内を結ぶ全長約12キロの街道です。16世紀後半から20世紀に至るまで、石見銀山と海岸部とをつなぐ中心的な街道でした。

港と港町

-14 温泉津の町並み

-ゆのつのまちなみ-

温泉津港は古い歴史を持つ港で、特に石見銀山が開採されてからは、江戸時代を通じてこの地域で最大規模の港町でした。また温泉（おんせん）町としての歴史も古く、古い要素とモダンな要素が混じりあった町並みが残されています。

世界遺産
石見銀山遺跡とその文化的景観

史跡	資産
● 銀鉱山跡と鉱山町	
— 石見銀山街道	
■ 港と港町	
□ 重要伝統的建造物群保存地区	
■ 緩衝地帯	

2. 代官所跡
-だいかんしょあと-
石見銀山の支配に関する中核的な施設で、17世紀以降は江戸幕府から官僚がここに派遣されて銀山を支配していました。

5. 石見城跡
-いわみじょうあと-
石見銀山を防御するために築かれた16世紀代の城跡のひとつで、標高153メートルの山頂にあります。石見銀山と仁摩方面を結ぶ街道の要衝に位置しています。

3. 矢滝城跡
-やたきじょうあと-
石見銀山を防御するために築かれた16世紀代の城跡のひとつで、標高480メートルあります。温泉津沖泊道と向かい合っています。

8. 熊谷家住宅
-くまがけらたく-
熊谷家は鉱山町を代表する商家です。19世紀初頭に建築された、鉱山町で最大規模の商家建築が残されています。

10. 鞆ヶ浦道
-ともがうらどう-
石見銀山街道のひとつで、鞆ヶ浦道と石見銀山柵内をつなぐ全長約7キロの街道です。

13. 沖泊
-おきどまり-
主に16世紀後半に利用された重要な港です。銀や銀鉱石の積み出しだけでなく、各種の物資が搬入され、軍事的にも重要視されていました。「鼻ぐり岩」が残されているほか、伝統的な集落景観やこの港を防御するために築かれた城跡なども残されています。

4. 矢筈城跡
-やはしじょうあと-
石見銀山を防御するために築かれた16世紀代の城跡のひとつで、標高480メートルあります。温泉津沖泊道と向かい合っています。

6. 大森・銀山の町並み
-おもりぎんざんのまちなみ-
鉱山に隣接して発展した鉱山町の町並みで、鉱山が繁栄していた時代は、周辺の政治・経済・文化・信仰の中心地でした。19世紀初頭以降の歴史的建造物が数多く残されています。

9. 羅漢寺五百羅漢
-らかんじごひゃくらかん-
羅漢寺には3箇所の岩窟が作られていて、中にはいづれも石造である三尊仏と五百体の羅漢像が残されています。18世紀中ごろに造られました。

12. 鞆ヶ浦
-ともがうら-
石見銀山の開発初期、主に16世紀前半に銀や銀鉱石の積み出しに利用されたと考えられる港です。海岸に残された「鼻ぐり岩」や狭い谷間に家が立ち並び集落景観が歴史を感じさせます。

7. 宮ノ前精錬工房跡
-みやのまえせいれんこうぼうあと-
代官所跡近くで発見された銀の精錬工房跡です。16世紀末から17世紀初頭にかけて操業していました。

1. 銀山柵内
-ぎんざんさくのうち-
石見銀山は16世紀前半に本格の開採が始まり、20世紀まで操業された鉱山です。17世紀はじめ（江戸時代の初め）は木の柵で厳重に囲まれていたことからこの名があります。鉱山開発をはじめとして、人々の生活、流通、信仰に関わる建築や遺構などが数多く残されています。

11. 温泉津・沖泊道
-ゆのつ・おきどまりどう-
石見銀山街道のひとつで、温泉津港・沖泊道と石見銀山柵内を結ぶ全長約12キロの街道です。16世紀後半から20世紀に至るまで、石見銀山と海岸部とをつなぐ中心的な街道でした。

14. 温泉津の町並み
-ゆのつのまちなみ-
温泉津港は古い歴史を持つ港で、特に石見銀山が開採されてからは、江戸時代を通じてこの地域で最大規模の港町でした。また温泉（おんせん）町としての歴史も古く、古い要素とモダンな要素が混じりあった町並みが残されています。